

# 酒田の玄関口 姿現す

## グラウンドオープン 22年春 今秋に図書館やホテルA棟の一部 駅前再開発

酒田市が同市幸町一丁目のJR酒田駅前を進めている駅周辺整備事業は昨年10月末に上棟式を行うなど、順調に推移している。今年10月ごろにはライブラリーセンター（図書館）やホテルなどの先行オープン、22年4月ごろにはマンションなど全体がグラウンドオープンする予定で、新たな「酒田の玄関口」が姿を現し始めている。



北東側（駅正面）から見る駅周辺整備事業の建設現場。手前がライブラリーセンターなど、左奥がホテル＝昨年12月末

酒田駅前には1997年8月に旧ジャスコ酒田駅前店が撤退。その後、民間事業者が二度、再開発を試みたが、いずれも資金繰りの問題などからとん挫。市は2013年度、市主導で再開発に取り組み方針を決め、14年度は市民団体代表らによる検討懇談会でグラウンドデザインを策定。15年度には対話型市場調査を経て、整備計画方針案をまとめた。16年度には事業プランを公募し、6月には応募した5事業者が公開プレゼンテーションを行い、7月に西松建設（本社・東京都）が事

業予定者に選ばれた。17年1月には同社と市が、都市再開発法に基づく第一種市街地再開発事業の事業主体となる特別目的会社（SPC）「光の湊株式会社」（野村信社長）を設立。3月に整備基本計画を策定し、基本設計を経て、18年3月には実施設計をまとめ、19年1月に着工した。計画では、光の湊株式会社と周辺の約1・4秒を計画区域に、市のライブラリーセンターやホテル、バンケット、レストランなどが入るA棟（鉄骨造り地上8階建て、延べ床面積1万1364平方メートル）、バスベイや店舗、立体駐車場が入るB棟（同5階建て、同7443平方メートル）、分譲マンションのC棟（鉄筋コンクリート造り、同5138平方メートル）の3棟を整備する。中核機能となる公共施設「酒田コミュニティセンター」は、中央図書館（中央西町）の機能を全面的に移転・拡充するライブラリーセンターをはじめ、カフェ、観光情報センター、広場、駐車場、バスベイで構成し、全体面積は3895平方メートル程度。うちライブラリーセンターとカフェ、観光情報センターがA棟、駐車場とバスベイはB棟、広場はその間にそれぞれ整備する。完成後に市が29億7000万円程度で取得する。



駅周辺整備事業の完成予想図＝北東側（駅正面）から望む



3月初旬ごろのオープンに向け順調に工事が進む亀ヶ崎コミセン。手前がコミセン、右奥は既設の記念会館＝昨年12月末



亀ヶ崎コミセンの完成予想図

### 3月初旬の開所目指す

#### 地元産材多用した亀ヶ崎コミセン

酒田市が同市亀ヶ崎三丁目の亀ヶ崎公園内で進めている「亀ヶ崎コミュニティ防災センター」建設事業は、今年3月初旬ごろのオープンを目指し、順調に工事が進んでいる。亀ヶ崎コミュニティ振興会（東根幸紀会長、加藤14自治会、住民約5000人）にとっては、待望の独自のコミセンが完成することになる。

同コミュニティ振興会には独自のコミセンがなく、1988年からは東禅寺コミセン（現松原コミセン）、2014年からは港南コミセンをそれぞれ間借りしていた。そのため14年、独自コミセンを建設するよう、市に要望書を提出していた。建設場所は亀ヶ崎公園内の南西側の旧ゲートボール場で、敷地は2971平方メートル。ここに昨年7月から、木造一部鉄骨造り平屋建て、延べ床面積は393平方メートルの建物を建設している。施設内には、間仕切りがなく開放的なコミュニティコーナー（36平方メートル、授乳コーナー付き）、研修室2室（うち1室は和室）、講座室2室、調理室、備蓄倉庫などを整備する。全体

に地元産材を多用し、木の温もりに満たされた空間を。北東側にある市亀ヶ崎記念会館（スポーツ練習場）と渡り廊下で結ぶ。西側には別棟で、木造平屋建ての防災倉庫50平方メートルを整備する。総事業費は約2億円。市内では36カ所目のコミセンとなる。市まちづくり推進課によると、工事は順調に進んでおり、本体建設は今年末までに完了の見込み。その後、備品を備え、3月初旬ごろのオープンが予定されている。